

# 教室だより（各学年・専科より）

## 1年生

「先生、あやとびとべるようになったよ。」「僕は交差とびできるようになったよ。」となわとび旬間ではあちらこちらから聞こえてきました。休み時間や体育、宿題など練習し飛べる回数も日に日に増えてきました。

大なわでは、グループで協力して毎回新記録を塗り替えています。1年生の大なわは、大なみ小なみで跳んでいるのですが、なかよし遊びで6年生のかっこいい八の字跳びを見せてもらったその日の体育から、よほど6年生がかっこよく見えたので、自分たちで八の字跳びをしていました。ちょっと難しいみたいですが・・・

このように今、1年生は自分の課題や目標を見つけて一生懸命にがんばっています。

## 2年生

12月7日はインスパイラスサーカスのみなさんをお招きし、一緒に詩を読みました。この言葉を読む時はこんな声で…こんな動きで！全身で表現しながら読み、最後には3クラスともオリジナルの歌まで出来上がりました。それぞれの感じ方・それぞれの表現の仕方を共有し、笑顔あふれる時間になりました。

「やったぞ！今年はお店が出せる！」去年はお客さんとして参加した谷原っこ祭りでは、お店を決める段階からやる気満々でした。1年前に上級生がしてくれたことを思い出しながら、2年生なりに考えて準備し、当日を迎えました。「わあ！行列ができていよ！」「こっちも手伝って！」やはり本番は想定外のことも多く四苦八苦。でも、だんだん慣れてくると、自分で考えてしっかりとお店番ができました。「来年は、こんなお店がやりたいな。」と、来年に向けても楽しみがいっぱいの2年生でした。

## 3年生

秋から育てていた練馬大根を畑で抜きました。多くの保護者の皆様がお手伝いしてくださいました。ありがとうございました。その後、大根はきれいに洗って10日ほど干しました。年末に高山社長が来校し、その指導で、干していた大根を樽につけました。たくあんになるのももうすぐです。

谷原っこまつりでは、各学級でお店を出しました。2年生に続き2回目のためか、自分たちで工夫したり、協力したりして運営できました。この行事で得た学級のみとまりと達成感を今後につなげていくよう指導を続けます。

## 4年生

昨年は兄弟学級のお兄さん、お姉さんとして2年生の面倒をみる中で、自覚と責任感が芽生えてきました。年が明けてあと3か月で5年生。高学年の仲間入りです。5年生からは全校の皆のために活躍することが期待されます。この3ヵ月間は、生活面、学習面で5年生へのステップアップの大切な時期になります。自分たちで考えて、行動できることを増やしていくことが目標です。

## 5年生 本物を知る

昨年12月の社会科見学では、明治製菓と富士重工に行きました。明治製菓では、厳重な衛生管理の下で次々と作り出される製品に子ども達は目を丸くしていました。富士重工では、ライン上を流れる部品を、人だけでなくたくさんのロボットが寸分の狂いなく組立てている様子を目の当たりにし、驚きとともに感動を覚えて帰ってきました。教科書だけではわからないことが、本物を見ることで子ども達の頭や心にしっかりと刻み付けられたと思います。まさに「百聞は一見に如かず」です。

さて、年が明け今月19日には《本物の天文学者を教室に》という国立天文台の方による出前授業を予定しています。本物の天文学者でなければ分からない貴重なお話が聞けるはずですよ。本物を見たり聞いたりすることで、子ども達の興味関心がさらに深まったり、知的欲求が高まったりすることを願っています。

## 6年生

谷原っこ祭りでは、クラスごとに1、2組がお化け屋敷、3組が射的というお店を出しました。自分たちで計画し、お客さんに楽しんでもらえるような工夫をしました。限りある時間を有効に使って、当日は大成功を収め、大満足の様子でした。

また、国語では、研究授業の成果としてオリジナルの「ぼくの世界、わたしの世界」を書き上げました。成長過程に合っていたようで、自分の気持ちを表現したり、友達の気持ちを受け止めてあげたりすることの大切さに気付き、まとめることができました。読書旬間でも同じ本を読んで感想を伝え合うこともできたようで、その成果に気づいていただけたかたもいらっしやと思います。

休み時間には「なわとび」にチャレンジしています。短なわも大なわも記録を伸ばすために一生懸命です。ご家庭でも一緒に跳んだり数えたりしてあげてください。

保健室から（子供に甘えないで…）

養護 押方 富子

学校で発熱や嘔吐など体調を崩したとき、保護者の方に迎えをお願いします。どの子ども「〇時間頃迎えに来るそうよ。」という私の言葉に敏感です。体調が悪いときは、大人でも不安です。子供の不安は大人が思っている以上に大きく、「先生今何時」と何回も聞きます。迎えに来る予定時刻を過ぎると、怒った声や涙声になります。心細さと体調の辛さに耐える姿は本当に健気です。

一方、『大丈夫。待たせたね』『遅くなってごめんね』『どうしたの。元気そうじゃない…』迎えに来たときの保護者の方の言葉や振る舞いは様々です。自分より後に保健室に来た子が次々帰っていくのをじっと見送った子には、保護者の方の優しい言葉が何より必要です。でも、中にはご自分の事情に負けて、大切な言葉が出ない方もいます。それは無意識とは言え、大人が「子供に甘えている」行為です。甘えの積み重ねは、子供との心の距離につながります。たかがお迎え、されどお迎えなのです。

